

個人投資家向け会社説明会 主な質疑応答
2019年8月7日 大和証券成城支店にて開催

- Q1:** 日本光電はもともと脳波計が主力だったと思うが、最近ではAEDの存在感が大きくなっていると思う。次の事業の柱としては人工呼吸器を伸ばしていこうと考えているのか。
- A1:** 当社はもともと脳波計から始まった会社ですが、現在では、脳波計よりも市場規模の大きい生体情報モニタが主力製品となっています。また、AED等の治療機器事業の拡大にも注力しており、今年新たに発売した人工呼吸器は、生体情報モニタとの相乗効果を図りながら伸ばしていきたいと考えています。
- Q2:** AEDは国内の様々な場所で見かけるが、全て日本光電製品なのか。AEDはかなり普及してきているように思うが、事業としてまだ伸びる余地はあるのか。
- A2:** 当社が国内唯一のAEDメーカーであり、比較的高いシェアを持っていますが、国内に設置されている全てのAEDが当社製というわけではなく、海外からの輸入品もあります。おっしゃるとおり、国内ではある程度普及してきましたが、海外、特に中国などの新興国市場はまだこれからです。市場成長が見込まれる新興国市場で引き続き事業拡大を目指しています。
- Q3:** AEDは一般家庭向けもあるということだが、1台の価格はいくらか。どこで購入できるのか。
- A3:** さまざまなラインアップがあり価格は異なります。家電量販店でご購入いただけるほか、提携先のセコム社が提供する一般家庭向けのサービスでは月額2,400円（税抜）でご利用いただけます。
- Q4:** AEDの使用について、必ずしも蘇生に成功するわけではないと思うが、どのような点に注意して使用するのが良いのか。
- A4:** 心室細動という不整脈で心臓のポンプ機能が停止し全身に血液が送られなくなると、電気ショックの成功率は1分経過するごとに約7~10%低下すると言われています。そのため、1分1秒でも早くAEDを使用いただくことが非常に重要です。電気ショックが必要な状態であるかどうかは、AEDが心電図を解析し音声ガイドでお知らせしてくれます。必要のない方に誤って電気ショックが行われることはありませんので、安心してお使いいただければと思います。また、AEDとともに胸骨圧迫（心臓マッサージ）も行う必要があるため、いざという時のために、ぜひ機会を見つけて地域の講習会などに参加していただくと幸いです。

Q5: 為替は日本光電の収益にどの程度影響するか。想定為替レートはいくらか。

A5: 当社では、輸出している自社品だけでなく輸入している他社品もあり、概ね輸出入のバランスが取れていることから、為替変動の影響は一定程度相殺されます。但し、近年は輸出量が増えていることもあり、米ドルに対し1円の円高で通期の営業利益にマイナス1.1億円の影響があると見ています。2020年3月期の為替の前提は、108円/米ドル、125円/ユーロです。

以 上

<ご留意事項>

※本資料は、投資家の皆様へのご参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。